

平成 25 年度 春企画展

箱根療養所にて

生涯を終えた戦傷病者

開催趣旨

箱根療養所は、戦争により手足を失い生活困難な傷病兵を收容した国立の保護施設「癩病院」が起源となります。後に「傷病院」と改称され、東京から小田原市に移転しました。名称は、傷病院の一面に脊髄損傷専門の「傷痍軍人箱根療養所」が併設されたことに始まります。戦後は一般にも開放され、国立箱根療養所の建て替えて、戦傷病者専用の施設として西病棟が設けられ、38 名が入所しました。療養所は国立療養所箱根病院、独立行政法人国立病院機構箱根病院と改称され、戦傷病者は平成 18 年には 3 床まで減少して一般病棟へ収容され、西病棟は閉鎖されました。平成 20 年には戦傷病者そのものが不在となりました。

今回の企画展では、ご自宅に戻ることなく療養所で生涯を終えられた方々がどのような生活を過ごしてきたのか、箱根療養所の変遷を踏まえつつ、その一端を資料で紹介しながら、証言映像とともに戦傷病者が日々見続けていた書画類も紹介します。

- 主 催：しょうけい館(戦傷病者史料館)
会 期：平成 26 年 3 月 26 日(水)～ 5 月 11 日(日)
会 場：しょうけい館 1 階
入 場 料：無料
開 館 時 間：10:00～17:30(入館は 17:00 まで)
休 館 日：毎週月曜日(祝日は開館)
内 覧 会：平成 26 年 3 月 25 日(火) 15:00～17:00
関 連 イベント：学芸員による展示解説 毎回 14:00 より 約 30 分程度、申込不要
3 月 29 日(土)、4 月 19 日(土)、5 月 10 日(土)

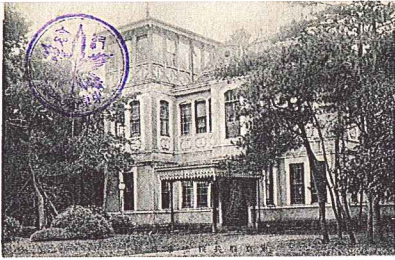


現在の旧傷病院本館(小田原市)

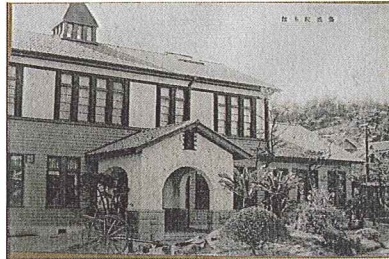
主な展示資料

<1>箱根病院の変遷

箱根病院は癡病院、傷病院と名称変更され、東京から小田原市に移転しました。移転後、傷病院の一部が脊髄損傷専門の「傷痍軍人箱根療養所」となり、戦後は国立箱根療養所、国立療養所箱根病院、独立行政法人国立病院機構箱根病院として名称変更され、今日に至ります。



癡病院(東京巢鴨)



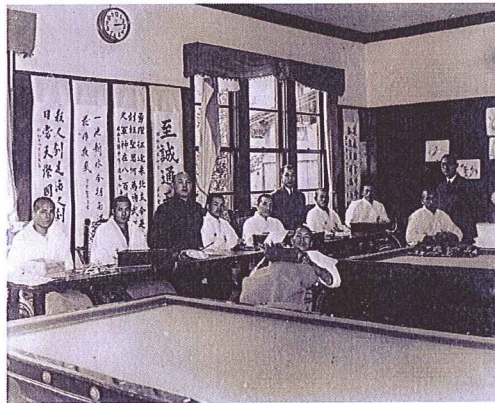
傷病院(小田原市)



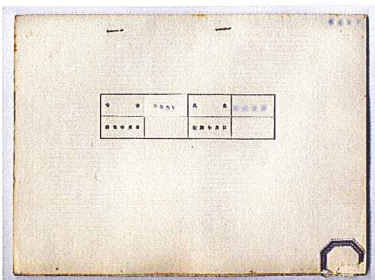
箱根病院(左端青い屋根が西病棟)

<2>戦中の療養

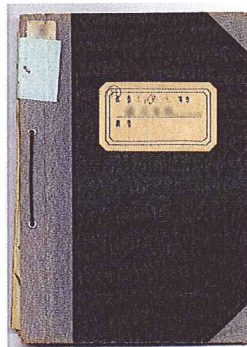
戦時中、負傷して陸海軍病院に入院し、脊髄損傷の疑いがあると診断された場合、陸軍は臨時東京第一陸軍病院に転院され、症状が固定した以降は療養を目的とした箱根療養所へ収容されました。



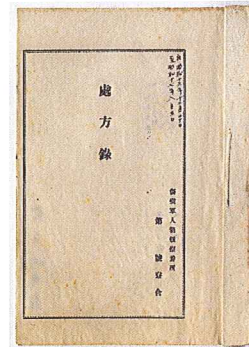
作業風景(戦中)



ケース記録



病床日誌



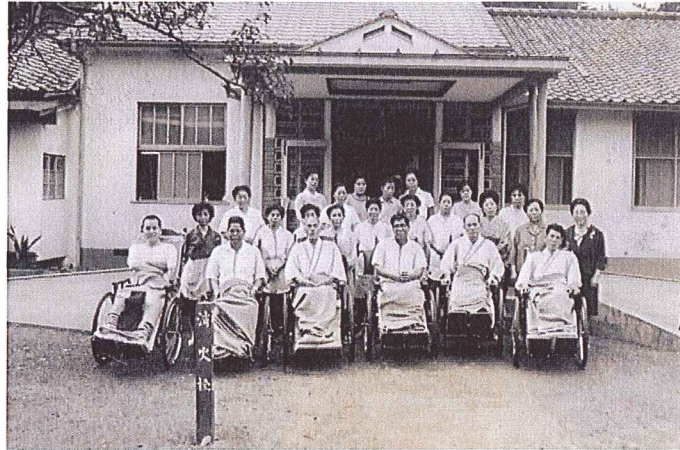
処方録



療養日記

<3>戦後の療養

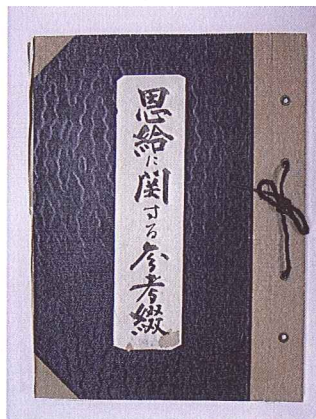
昭和 20 年 12 月には「国立箱根療養所」と改称され、戦傷病者だけでなく一般の脊髄損傷患者も受け入れるようになりました。施設の老朽化から昭和 40 年には、戦傷病者専用の西病棟が新設されました。



記念写真(昭和 39 年)



入所者が製作した尺八



恩給に関する参考綴



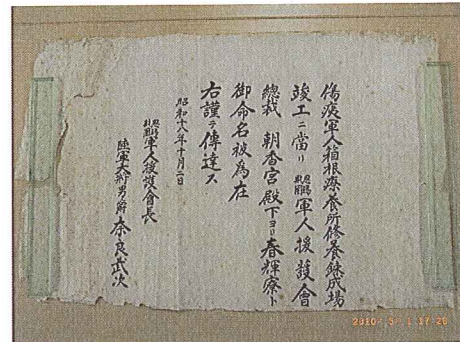
廻覧簿

<4> 入所者を見守った書画

箱根療養所には、様々な書画類が残されています。その大半は癩兵院時代の明治から戦中にかけて寄贈されたものです。退院できる見込みのない入所者にとっては、心の励みもとなっていました。これらの書画類は、今日まで長きにわたって大切に保管されてきました。



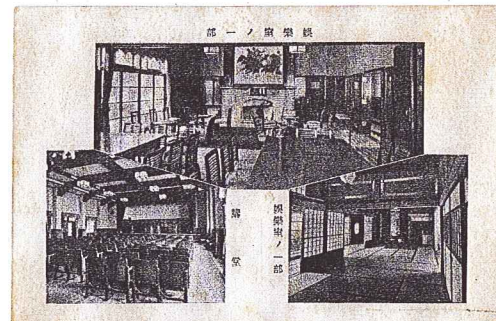
奈良武次書「春輝寮」(額)



「春輝寮」の命名書



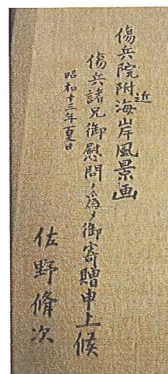
武藤夜舟画「馬上の兵士」



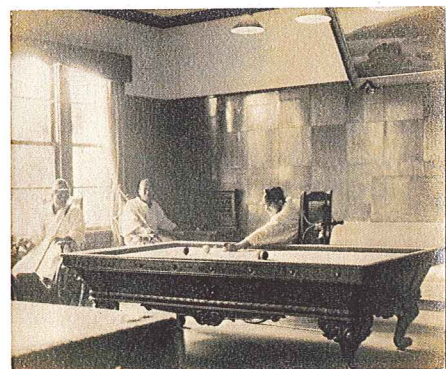
絵葉書



佐野侑次画「傷兵院附近海岸風景」



(同左裏書)



娯楽室の風景

<5> 入所者の支え

入所者の最大の支えは車イスです。脊髄損傷となった戦傷病者の車イスは「箱根式車椅子」と称され、日常の行動には自分の「足」として活用していました。そうした思いの一端を窺えるのが文芸誌『函嶺』です。これには入所者の様々な思いが投稿され、その時代を反映しています。



「函嶺」

手動運動車
No. 23

車体…総金属製 黒エナメル美麗仕上げ
但し腰掛部は堅木製レザー又は布張
スプリング入
脚部は上下自由 背部も前後自由
車輪…自転車用26吋(3/8)ゴム車輪二個付
後部・小型ゴム車輪一個付
病院、療養所の備品としておすすめします
歩行不自由なお方になくはならぬ軽快車

全国々立病院・療養所御用達・医料器械一般製作

北島藤次郎商店
東京都八王子市八日町一丁目九番地
電話 八王子 三六六〇番

平成16年5月1日 (新聞紙面掲載許可) 日 傷

労苦の歩み戦傷病者と共に 箱根療養所型車椅子

眞・留月充六人、歩
重男さん、坂本勇
人を訪問した時、あ
る。同病室で使った車
椅子の歴史に及んだ
のが、留月充六さん。
療養所型車椅子と、
当時の箱根療養所、
が、留月充六さん。留
月充六さんの、箱
根療養所型車椅子の
歴史を、留月充六さ
んが、留月充六さん
の歴史を、留月充六
さんが、留月充六さ
んが、留月充六さん

箱根療養所型
車椅子の由来
留月充六さん、留
月充六さん、留月
充六さん、留月充
六さん、留月充六
さん、留月充六さ
ん、留月充六さん

留月充六さん、留
月充六さん、留月
充六さん、留月充
六さん、留月充六
さん、留月充六さ
ん、留月充六さん

関連映像や図書の紹介

(主な証言映像の上映)

当館で制作した証言映像のほか、関連する映像も併せて上映します。

- ・「暖かい支援にささえられて」(9分 55秒)
- ・「受傷と労苦と葛藤を越えて」(9分 45秒)
- ・「療養所は大きな家族」(9分 53秒)
- ・「箱根療養所」(12分 28秒)

(関連図書の紹介)

- ・『創立 50 周年記念誌』 国立療養所箱根病院創立 50 周年記念誌編集委員会編/国立療養所箱根病院出版
- ・『国立療養所箱根病院創立 60 周年記念誌』 国立療養所箱根病院創立 60 周年記念誌編集委員会編/国立療養所箱根病院出版 等

- 会期中の証言映像は、会期終了後も館内情報検索コーナーでいつでもご覧いただけます。

その他、これまでの当館が制作した戦傷病者の証言映像についても、館内情報検索コーナーにてご自由に検索・閲覧できます(団体には無償で証言映像DVDを貸し出しています)。

資料協力：独立行政法人国立病院機構 箱根病院

(株)ケイ・アイ(箱根式車椅子関連資料)

所在地：〒102-0074 東京都千代田区九段南 1-5-13 ツカキスクエア 九段下

(交通案内)

●地下鉄の場合

「九段下」駅 6 番出口から徒歩 1 分
(東西線、半蔵門線、都営新宿線)

●都営バスの場合

「九段下」停留所から徒歩 1 分
(高 71 系統 九段下～高田馬場駅)

* 駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。

* 車椅子で来館される場合は館の A 入口をご利用ください。



ホームページ：<http://www.shokeikan.go.jp>

問い合わせ先：(電話) 03-3234-7821 (FAX) 03-3234-7826 (担当)学芸課 木龍